

第3回おおさかスマートエネルギー協議会議事概要

開催日時：平成26年2月18日（火）15:00～17:00

場 所：大阪府咲洲庁舎 20階 会議室

1. 今冬の電力需給状況について

- ・関西電力より、今冬の電力需給見通しの説明と節電のお願い。
- ・事務局より、節電のお願い。

【主な質疑等】

- ・当初見込んでいた供給力が確保できないことはなかったか。
⇒ 火力発電所のトラブルで供給力が減ることもあるが、他電力や卸電力取引所から調達するなどにより対応している。
- ・天気予報を見ていれば、需要は推計できると考えてよいか。
⇒ 気温の影響は非常に大きい。データでは、冬は1℃下がれば約40万KW、夏は1℃上がれば約80万KW増えている。
- ・節電実績としては、もともと関西電力が見込んでいた定着した節電率3.8%をかなり上回ったと考えてよいか。
⇒ 実態としては、無理のない節電をお願いした中で、昨冬と同様の節電にご協力いただいている。

2. 部門別会議の報告

- ・事務局より、各部門別会議（事業者・家庭・市町村）の結果について報告。

【主な質疑等】

- ・ため池におけるフロート式太陽光発電は初めて聞いたが、府域での導入件数は。
⇒ 全国レベルでは事例はあるが、府域ではこれから。ただ、府域でも動きはあり、各市町村さんに情報提供させていただいた。
- ・公共施設の屋根貸しは、発電事業者にとって手を挙げにくく、応募も少ないと聞か。
⇒ 実際あまり応募がなかった。この理由を発電事業者に聞いてみると、採算が合わないということだった。防水工事等もセットで条件にしていたので、発電事業者の負担を減らした形で再募集をしている。また、10kW以上については買取価格が一律であるが、小規模の屋根は採算性から不利である。
- ・大阪市では、ごみ発電施設の余剰電力の売電を関西電力との随意契約から入札に切り替えた。これにより年間10億円程度の増収が見込まれている。
- ・家庭部門の議論では、みんなが協力して継続して省エネに取り組んでいくということが必要ということがみえてきた。
- ・大阪商工会議所としても、BEMSを活用した節電や省エネの取組みの重要性は認識しており、BEMSをテーマにしたセミナーを開催したりしている。今後も取組みを進めていきたい。

3. エネルギー基本計画、おおさかエネルギー地産地消推進プラン(案)について

- ・近畿経済産業局より、エネルギー基本計画の検討状況について説明。
- ・事務局より、おおさかエネルギー地産地消推進プラン(案)、関西エネルギープラン(案)について説明。

【主な質疑等】

- ・エネルギー基本計画は、供給に関する内容が中心だと思うが、省エネへの投資は大きな供給力ともみることができる。大阪府の計画では省エネが大きく取り上げられているが、国では最後に少し取り上げている程度に思うが。
⇒ 国でも当然ながら省エネを推進していくという方針。省エネを押し付けるのではなく、エネルギーマネジメントにより効率的にエネルギーを使うという方向性、例えばデマンドレスポンスなども取り上げている。

4. 電力・ガスシステム改革について

- ・近畿経済産業局より、電力・ガスシステム改革について説明。
- ・大阪府より、大阪府市エネルギー戦略会議から頂いた提言を紹介。

【主な質疑等】

- ・関西電力として、国のワーキングにも参加しているが、真にお客様の利益につながるシステムとなるよう、十分な検証と柔軟な見直しをしていただきたいと意見を申し上げている。
- ・大阪ガスとしては、電力システム改革を見据えた上で公正なシステムとしていただきたいと考えているが、ガス会社は約 200 社あり、難しさが多くあると感じている。
- ・家庭に混乱が起こらないように慎重に検討していただきたい。
- ・産業界としては、安定で低廉な電力供給を維持していただきたい。

5. その他

- ・来年度の取組み等について意見交換。

【主な質疑等】

- ・関西電力として、夏冬の需給で皆様に大変ご協力をいただいていることもあり、家庭部門では電気という観点から議論させてもらっているが、エネルギーとしては灯油など、他のエネルギー源もあるので、エネルギー全体に広げて議論してみてもよいのではないか。
- ・関西経済連合会では、関西広域連合と連携して、家庭の省エネに取り組もうとしている。具体的には、各企業で社員に家庭の省エネを進め、各家庭で実行している企業を表彰するなどもあるかと考えている。